

みんなで作る博物館3

～“化石”過去と現在をつなぐタイムカプセル～



平成27年度『環境学習みえ』では、『みんなで作る博物館』をシリーズで特集します。三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、総合力を発揮して探究し、保全・継承するMieMu(みえむ):三重県総合博物館。学びと交流を通じての人づくりや、愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献するMieMuのさまざまな活動を取り上げます。

MieMuのシンボル『ミエゾウ』

MieMu(みえむ)・・・三重県総合博物館の3階学習交流スペースでは、国内最大の陸生哺乳類『ミエゾウ』がわたしたちを迎えてくれます。大きさは全長7.6メートル、体(肩)高3.6メートルで、全身骨格標本(写真上)を復元したのは、全国でMieMuが初めてです。復元は全国各地で発見されているミエゾウの化石のデータから全身骨格を組み上げるといえるもので、MieMuの学芸員をはじめ専門家が全国の博物館などをまわり、3Dスキャンしてデータを集めました。化石の見つかっていない部分については、ミエゾウに近い種の中国のコウガゾウを参考に、より実物に近い全身骨格を作製しました。

最初にミエゾウの化石が発見されたのは河藝郡明村で、明治時代のことでした。そのほか国内で24カ所から見つかっていますが、その半分は三重県内です。またミエゾウの学名は『*Stegodon niensis*(ステゴドン・ニエンシス)』で、世界共通の学名に『三重』の地名が付けられており、三重県と深い関わりのあるゾウだといえます。



今回の『みんなで作る博物館』シリーズの平成27年度秋号では、学芸員(古生物学)の中川さんにMieMuでの化石に関わる博物館活動についてお話を伺いました。また参加者とともに化石の調査をする『地球探検隊』の活動についてもご紹介します。

【お話を伺った人】



MieMu みえむ | 三重県総合博物館
MieMu: Mie Prefectural Museum, Japan

学芸員(古生物学)

なか がわ りょうへい

中川 良平 さん

新生代後半(500万年以降)の哺乳類化石を専門に、主に洞窟などで化石調査・研究をしています。平成22年には沖縄県石垣島で日本国内最古のヒト化石の発見に関わりました。

MieMuの学芸員として、ミエゾウの全身骨格復元や、開館記念企画展『でかいぞ ミエゾウ!～化石が語る巨大ゾウの世界～』にも関わってきました。



おきのえらぶしま おおやますいせうどう
平成19年 沖永良部島大山水鏡洞にて